

令和8年 2 月 26 日

岩沼市議会議長 酒井 信幸 殿

議員氏名 高梨 明美

調 査 研 究 等 報 告 書

実施期日	令和8年 1 月 26 日（月）～ 令和8年 1 月 28 日（水）
参加者氏名	高梨明美
調査地等 及び 調査事項等	(1) 調査地・研修場所（高知県室戸市） 日時 令和 8 年 1 月 2 6 日（月）午後 2 時 3 0 分～4 時 0 0 分 調査・研修内容 1．津波・地震対策について
	(2) 調査地・研修場所（高知県安芸市） 日時：令和 8 年 1 月 2 7 日（火）午前 1 0 時 0 0 分～1 1 時 3 0 分 調査・研修内容 1．安芸市中心商店街等振興計画及びアクションプランに基づく 取組について
	(3) 調査地・研修場所（高知県南国市） 日時：令和 8 年 1 月 2 7 日（火）午後 2 時 0 0 分～3 時 3 0 分 調査・研修内容 1．朝ドラ「あんぱん」を生かした観光施策について

※ 別途報告書を作成の上、添付してください。

※ 報告書には、報告者氏名、調査・研修目的、調査・研修内容及び効果・成果等を記載の上、その他調査・研修内容が分かる資料（視察時資料、研修資料等）を添付してください。

I	調査地	高知県 室戸市
	調査月日	令和 8 年 1 月 26 日 (月)
	調査事件	津波・地震対策について
	概要	1 現行の津波・地震対策について 室戸市では、平成 23 年の東日本大震災を契機に総務課防災対策室を設置し、「命を守る対策」を最優先課題として、ハード・ソフト両面からの防災対策を重点的に実施してきた。今後は「命をつなぐ対策」に重点を置いていきたいと考えている。 2 防災インフラ（避難施設・避難路等）の整備状況について ・津波避難タワー：11 基 ・津波避難シェルター：1 基 ・津波救命艇：5 艇 ・津波避難路：142 路線整備 今後の整備予定 ・トイレカー(2 台) ・地下埋設型トイレ (1 か所) ・防災行政無線更新 (3) 住民への周知・啓発活動について 住民の防災意識向上を目的として、防災出前講座や防災講演会を継続的に実施している。また、令和 7 年からは、市広報誌において毎月『命を守る』をテーマとした防災啓発記事を掲載し、日常的な防災意識の定着を図っている。加えて、木造住宅の耐震化を促進するため、個別訪問による働きかけを実施している。 (4) 津波避難計画および避難行動計画について 平成 14 年 7 月に「地震防災対策推進に関する特別措置法」が制定され、室戸市は平成 15 年 12 月に東南海・南海地震防災対策推進地域に指定された。 ・平成 24 年 3 月：室戸市津波避難計画を策定（令和 2 年 3 月改定） ・平成 24 年 3 月：特別津波避難計画を策定（令和 2 年 3 月改定） 避難行動体制については、毎年 11 月初旬に市内一斉の津波避難訓練を実施。令和 7 年度は室戸高等学校で避難所開設訓練実施。 (5) 関係機関との連携状況について ・自主防災組織と連携した防災訓練の実施 ・消防本部及び室戸警察と連携した災害対策本部初動対応訓練 ・陸上自衛隊高知駐屯地東部地区協力会による防災訓練への協力 ・国土交通省土佐国王事務所、高知県道路課、建設業協会室戸支部との勉強会の実施 (6) 今後の課題及び改善点について ・高齢化による防災活動の低下 ・防災行政無線や津波避難施設の維持管理負担の増大 ・自主防災組織間における活動の差

	まとめ	避難施設や防災インフラの整備のみならず、住民一人ひとりが「自ら判断し、即座に行動できる」意識を醸成するため、継続的な啓発と訓練の充実が不可欠である。 災害発生時に円滑な初動対応を行うため、警察・消防・自衛隊・国・県・民間事業者との連携を、訓練や勉強会を通じて平時から深化させることが重要である。 津波到達までの時間が極めて短い地域では、避難の迅速性が生死を分ける。本市においても、想定津波到達時間を改めて共有し、徒歩・高齢者・夜間など多様な条件下での避難行動の実効性を検証すべきである。 また、地域の高齢化を見据え、支援が必要な方を前提とした避難計画や、見守り・声掛け体制の再構築を進める必要がある。
--	-----	--

Ⅱ	調査地	高知県安芸市
	調査月日	令和 8 年 1 月 27 日 (火)
	調査事件	安芸市中心商店街等振興計画及びアクションプランに基づく取組について
	概要	1 取組に至った経緯について 安芸本町商店街は、高知県安芸市の南部に位置し近くには海岸が広がる。長い歴史と近代的な街並みを併せ持つ商店街だが、南海トラフ地震による津波対策として、商店街周辺にあった市役所庁舎や高校が令和6(2024)年に商店街から数キロ離れた津波浸水想定区域外へ移転することになり、商店街周辺の昼間人口が大幅に減少、商店街のにぎわいが失われることが危惧された。 2 安芸市中心商店街等振興計画策定時の行政と民間団体の関わり方について 安芸商工会議所は、社会経済環境の急激な変化に対応するため、高知県の支援、安芸市の協力のもと、令和3(2021)年11月に「安芸市中心商店街等振興協議会」を設置。安芸本町商店街を含む中心市街地エリアの振興を図る「安芸市中心商店街等振興計画」の策定に向けた協議・検討を行った。 (3) 取組のなかでワーキンググループの立ち位置や詳細について 安芸市中心商店街等振興協議会の下に「ワーキンググループ」を設置。協議会事務局（安芸商工会議所）の提案により、ワーキンググループには商店街関係者だけでなく社会福祉団体、農業経営者、銀行、地域おこし協力隊、高校生など約40名の多様なメンバーが参加し、振興のための取組の具体的なアイデア出しやアクションプラン（行動計画）の検討を行った。令和4(2022)年5月、「安芸市中心商店街等振興計画」を策定。基本方針、基本となる取組、目標達成に向けた具体的な取組、アクションプランを定めた。数値目標も設定することで、PDCAサイクルに基づく取組状況の点検・検証を行い、必要な取組の追加や見直し等を行う。 (4) 振興計画・アクションプランに基づく取組の実例について 市民が集える場の提供。食や特産品を通じて市内外の人が交流できる場の提供として ・たまり場 ・軽トラマルシェ ・商い甲子園 食や特産品を通じて市内外の人が交流できる場の提供。海、川を活用した回遊環境の整備として ・かがりビーチ ・アキラボ(自然環境調査) ・浜弁当 魅力的な個店や飲食店の充実。空き家・空き店舗の利活用。 ・高校生マルシェ 商店街の人やモノ・サービスの魅力や情報の発信。街並みを活かした回遊の仕組みの開発。 ・まち歩きマップ ・東洋的漫遊祭。 (5) 取組の成果について

	当初は、振興計画の進捗状況の報告を主な目的として、協議会やワーキンググループのメンバーのみが参加していたが、口コミや紹介で参加者が増加。「たまり場」に興味のある者は誰でも参加できるため、移住者・Uターン者、市外住民などの出席者が増え、安芸やその周辺地域のコミュニティ形成・連携の場となっている。 また、多様な経験、情報、人脈などを持つメンバーが集まって議論することにより、振興計画のフォローアップだけでなく、新たな事業の具体化、協力・応援体制の構築、さらには個別事業の相談など、地域活性化のための新たなアイデアの発掘や地域連携の発展、課題の解決等が持続的におこなわれる場となっている。たまり場のルールとして、会場や飲食物の調達は振興計画のエリア内とすることと定められており、「たまり場」の開催自体も地域内の消費拡大に貢献している。 （６）課題や問題点について 安芸の町を盛り上げようという多くの人が、商店街活性化を目的に集まり、自分事と捉え、議論している光景に、変わっていきそうだ・変わらなければならない、と感じた。県の熱意、市の協力姿勢を感じた。しかし、これまで商店街を中心に取組んできたが、事業者の高齢化やプレイヤー不足等により課題解決が難しくなっている。
まとめ	振興のための具体的な取組のアイデア出し等を行うワーキンググループに商店街関係者だけでなく、約40名もの多様な知識や経験を持つ人たちが関わっていることが印象的であった。このようなイベントでは売上を伸ばすことが中心であることが多いが、ここでは人が集まる機能としての商店街のコミュニティ機能に注力されており、振興計画で「たまり場」を作り、それが継続して実施されていることが特徴的である。 当市においても、「いわぬま市民マルシェ」や「よい市」など有志や商工会など多くの方々が企画参加している地域活性化に向けたイベントが開催されている。個々みんなが参加することはもとより、継続のための地域ぐるみの協力が必要と感じた。

Ⅲ	調査・研修地	高知県南国市（人口 45,224 人、面積 125,30km ² ）
	調査・研修年月日	令和8年1月28日（水）
	調査・研修項目	朝ドラ「あんぱん」を生かした観光施策について
	調査・研修内容等	1. 観光推進事業における基本計画の重要性について 令和4年10月に制作決定し、南国市ではこの放映を好機として、やなせ先生の所縁の観光素材を磨き上げるとともに既存の観光施設を生かしながら、これまで築き上げてきた連携体制を活用して後免町（現在の南国市）の活性化や南国市の観光を中心とした産業振興に活かす取り組みを進めた。また、この取り組みのなかでやなせ先生の功績や、ご夫婦が「あんぱん」等に込めた想いを引き継いでいく事にある。 2. 近隣市や他地域との広域連携による事業体制について ・事業の推進体制作成行い広域連携を図っている ・高知県、香南市、香美市、物部川PMO協議会との連携している。 ・物部川エリアの観光博覧会の開催。 ・連続テレビ小説関連施策推進チームを立ち上げる。 ・南国市観光施設連絡会と中心市街地振興協議会の連携。 3. 放送決定から放送開始までのハード面・ソフト面の観光客を受け入れるための環境整備の課題と対策について ・後免町、南国市観光課題 中心市街地に駐車場がない、トイレがない。 ・「やなせライオン」が小学校敷地内にあり、安全管理に課題がある。 ・空港から後免町への公共交通がない。 ・中心市街地と各観光施設を結ぶ公共交通が不便である。 ・駅や海洋堂 Space Factory なんこくからの観光ルートがいかれない。 ・後免町商店街やなせたかしロードがシッター街になっている ・中心市街地でランチ営業をしている飲食店や団体受入可能な飲食店が少ない。 ・観光ガイドの人手不足・高齢化している。 ・補助金は、国の中心地市街地整備費用を活用している。 4. 放送中の観光客の受入れ状況について ・シンボルロード、やなせたかし・ごめん駅前公園、やなせライオン像、優しい心になれる町、ごめんほのぼのMAP ごめん駅からありがとう駅への看板設置、沿道広場、観光駐車場（臨時）観光案内所等の整備を行います。 ・観光を中心とした南国市の産業振興の強化および地域活性化（地方創生）を目指している。 ・市内の各種団体・事業者向け支援等の検討、各種団体、イベント事業者によるお土産品の開発を行っている。 ・受け入れ駐車場170台と大型バス駐車場の整備を行う。 ・ターゲット層の取り組み

		1 シニア女性（友人や夫婦・家族を含む） 2 未就学児を含む子育てファミリー 3 観光ツアー（団体客） 4 南国市とのつながりを求める人 ・「あんぱん」放映を機会に南国市観光主要施設（県立歴代民族資料館、道の駅南国風良里、西島園芸団地、海洋堂）見込数は、平成30年頃には50万人前後であったが、17%増加の7年度58,3万人の見込みとなっている。 - 南国市、香南市、香美市3市の観光総消費額は、令和4年度33億円であったが、2,6倍増加の7年度85,7億円の見込みとなっている。 5. 放送終了後の現在とこれ以降の施策について ・年間8万人の計画が12月まで71,000人で3月まで達成する。 ・観光客がストレートフリーに南国市を楽しめる環境の整備。 ・南国市の魅力が伝わる「おもてなし」体制の整備。 ・滞在時間の延長や観光消費の増大を図る誘客・周遊イベントの開催。 ・南国市の魅力が伝えるお土産品、特産品の開発、販売の強化 ・あんぱんは、今後台湾でも放送されるので台湾の旅行客が見込まれる。 ・NHKの大河ドラマ「秀吉、秀長兄弟」において高知の戦国武将長宗我部元親との場面があり観光にも期待している。 ・やなせ先生のブランドを観光に利用の検討。
	まとめ	南国市では「あんぱん」放映を好機にやなせ先生所縁の観光施設を生かし産業振興を行っている。高知県と隣接する市と連携し、連続テレビ小説関連施策推進チームの立ち上げ、市観光施設連絡会と中心市街地振興協議会の連携し、ハード面・ソフト面の環境整備を看板設置、沿道広場、観光駐車場、観光案内所等の観光客を受け入れる環境整備を行い、市内の各種団体・事業者向け支援イベント、お土産品の開発を行っている。「あんぱん」放映後の見込数は、17%増加、観光総消費額2,6倍増加の85,7億円となった。放送終了後も観光客が南国市を楽しめる環境「おもてなし」体制の整備、滞在時間の延長や観光消費の増大を図っている。 岩沼市を題材としたアニメ「バクテン」があったが全国レベルの話題になっていない。しかし、令和6年、蛇年の金蛇水神社参拝者が増加し、7年は馬年で竹駒神社の参拝者が増加している。名称、名物を活用した近隣の2市2町や仙南地域の市町と連携し、岩沼を楽しめる環境づくり話題創りが必要である。